

科目ナンバー	MAN-A-2-02		
科目名	産業と職業		
担当者	深町 珠由		
開講期	2021年度 春学期	科目区分	週間授業
履修開始年次	1	単位数	2.0
曜日/時限	火曜1限	教室	
授業題目	職業や産業への関心を深め、自分がどう関わるかについて、理解を深める		
授業の達成目標	産業や職業についての体系や広がりを理解し、適切な情報にアクセスできるようになる。大学生であり女性である受講生が、自らの特性や適性・得意分野を生かした職業との関わりを具体的に考えられるようになる。適切な職業情報を取得・整理し、情報を的確にまとめることができる。様々な立場(若者、女性、障害者等)からみた職業の意味や、技術革新による影響を理解し、今後自分の選択する職業と社会との関わりについて、自分の言葉で考えを説明できるようになる。		
今年度の授業内容	「人が職業を得て、働く」ことに対する体系的な理解を深めることを目的とする。日本の産業・職業の体系と特徴を俯瞰した上で、大学で専門分野を深めて卒業した後の職業選び、女性と職業との関わり、できることを生かそうとする働き方(例:障害者と職業)等について学ぶ。次に自分自身の職業能力、興味、価値観を見つめ直し、自分の特性と専門性を最大限に生かした職業人生をどう送るかについて、総合的に考察できる知識とスキルを養う。さらに、職業情報については求人情報との違いを理解するとともに、コマーシャリズムと一線を画した公平・中立な目線で情報の取捨選択ができるスキルを習得する。		
自習に関する一般的な指示事項	<ul style="list-style-type: none"> ●世の中には、様々な「職業」に就いた人が、様々な働き方で社会と関わっています。この授業では、「職業」について様々な観点から考える機会を提供します。この授業を有意義なものとするには、世の中の様々な職業のあり方や働き方について、自分の専門分野にこだわらず、幅広く観察することが重要です。職業や働き方について話題となっているニュースや、インターネットや書籍等からの情報を集め、「なぜこうなのか?」という疑問を常にもち、自分の力で考える機会を積極的に作ってください。疑問に思った点があれば、授業の感想文とともに、教員まで積極的に質問してください。自分の力で考える積極的な姿勢をこの授業では大いに評価します。 ●職業に関する情報は、技術革新等の影響を受けてすぐ古くなる傾向があります。そのため、最新の職業情報が載っている「本」を紹介することはあまり現実的でなく、皆さんにとって有益ではないと考えています。そのため、自分自身で最新情報にアクセスできる力を身につける必要があります。この授業ではそのような「生き抜く力」の一端を身につけたいという意欲や積極性のある受講生の参加を求めます。 		
授業スケジュール			
第1回	産業とは何か、職業とは何か		
第2回	職業とどう関わるか(1)さまざまな働き方(雇用形態について)		
第3回	個人と職業(1)職業適性とは何か		
第4回	個人と職業(2)職業適性の概説(能力・興味・価値観)		
第5回	個人と職業(3)職業適性検査結果の解釈		
第6回	個人と職業(4)職業適性に関する総理解とまとめ		
第7回	個別職業の探求(1)職業情報へのアクセスと理解(求人情報との違い)		
第8回	個別職業の探求(2)職業情報の収集		
第9回	個別職業の探求(3)職業情報の執筆		
第10回	職業とどう関わるか(2)若者の初期キャリア形成と職業		
第11回	職業とどう関わるか(3)女性と職業		
第12回	職業とどう関わるか(4)障害者と職業		
第13回	職業とどう関わるか(5)高齢者と職業		
第14回	これからの労働市場、産業革新と職業の変化		
第15回	全体のまとめ・労働に関する法律の理解		
授業の運営方法	<ul style="list-style-type: none"> ●遠隔授業の実施方法は、オンデマンドによる映像配信となる。具体的内容は「その他、履修生への注意事項」を参照のこと。 ●対面授業・遠隔授業双方とも、ポータル上で毎回配布されるPDFの授業資料を授業開始前にダウンロードしておくこと。授業中にインターネットにアクセスする場合は、PC・タブレット・スマホどれを使っても構わない。 		
成績評価の方法	※次の評価基準・割合に基づき評価されます。		

評価の種類	割合(%)	評価基準、評価方法
定期試験	0	実施しません
小論文・レポート	80	2～3回程度のレポート提出あり(職業適性、授業関連テーマの本の感想、職業情報)
授業参加	20	授業に出席し授業内容に対する自分の考えを的確に表現または有意義な質問ができた場合に高く評価する。
その他	0	
テキスト	PDF配布資料、インターネットでの情報アクセス(書籍の指定はありません)	
参考文献	上林千恵子編著(2012)「よくわかる産業社会学」ミネルヴァ書房 小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充(2015)「産業・労働社会学」有斐閣アルマ	
関連ページ	<p>(独)労働政策研究・研修機構 職業情報・就職支援ツール https://www.jil.go.jp/institute/seika/index.html 厚生労働省職業情報提供サイト(日本版O-NET) https://shigoto.mhlw.go.jp/User/ 厚生労働省編職業分類 https://www.hellowork.mhlw.go.jp/info/mhlw_job_dictionary.html 日本標準職業分類(総務省) https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/shokgyou/21index.htm 日本標準産業分類(総務省) https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/sangyo/H25index.htm</p>	
その他、履修生への注意事項	<p>今年度は対面授業と遠隔授業を併用します。 学籍番号の偶数・奇数で2グループに分割し、各グループが隔週で対面授業に出席します。 自分の出席番号で、どの日が対面授業日(あるいは遠隔授業日)にあたるかは、教務課からの情報を必ず確認し、間違いのないようにしてください。</p> <p><使用ツール> 授業で使用するツールは、ポータル、Microsoft Teams(Stream)です。Teamsではオンデマンド動画をStreamで配信します。</p> <p><授業運営方法> ◆対面授業:教室に出席し、教員の指示によりスマホで出席をとり、対面授業を受講します。授業資料は教室で紙でも配布しますが、インターネットへのアクセスが必要となる資料もあるため、ポータルから授業資料(PDF)をダウンロードして手元で見られるようにしておくことを推奨します(スマホでも可)。 ◆遠隔授業:授業開始前にポータルから授業資料(PDF)をダウンロードし、資料の指示に従ってスマホで出席登録をします。その後、Teamsの当授業のチームに入り、Streamのオンデマンド動画を視聴します。対面授業と同一時間帯に視聴することを推奨します。 ※遠隔授業日の授業資料(PDF)を、後日対面授業に出席した時に配布することは基本的には行いません。ただし、適性検査の用紙など、現物を配布する必要がある資料については全員に行き渡るよう配布します。</p> <p><出席の取り方> 対面授業・遠隔授業ともに、スマホで出席をとります(=スマホでポータルを表示させ、出席を回答する)。 ◆対面授業:教室内で教員が指示した認証コードを入力し、「出席」と回答します。さらに追加で、紙に学籍番号と氏名を書いたものを教室内で回収する予定です。 ◆遠隔授業:授業開始前にポータルから授業資料(PDF)をダウンロードし、そこに書かれた「認証コード」を入力し、一定時間内に「出席」と回答した場合に「出席」とカウントします。</p> <p><【重要】出欠に関する注意事項> ◆対面授業に欠席する場合: ・対面授業を欠席した代わりに遠隔授業に参加し、スマホで「出席」と回答しても、事前に教務課に「対面授業不参加申請書」を申請し、許可が得られていなければ「出席」扱いにできませんのでご注意ください。申請書は教員に対してではなく、必ず「教務課」に対して行ってください。 ・対面授業を欠席した代わりに、遠隔授業のオンデマンド動画を視聴し、自習することは可能ですし、強く推奨します。ただし、動画を視聴しても「欠席」扱いが変わることはありませんので、その点はご了承ください。 ◆遠隔授業に欠席する場合: ・授業開始後一定時間内に、スマホで「出席」した場合のみ出席扱いとなります。その後からは出席登録はできず、全て欠席扱いとなります。 ・欠席となった場合でも、自分の都合のよい時間にオンデマンド動画を視聴し、自習することは可能ですし、強く推奨します。ただし、動画を視聴しても「欠席」扱いが変わることはありませんので、その点はご了承ください。</p>	

<授業参加状況の判断方法について>

対面授業・遠隔授業ともに、授業後に出されるポータル上の「授業参加状況評価アンケート」への回答内容を見て判断します。授業を受けての感想や、気づいたこと、知りたいことなどを自由に書いていただく形式です。回答期限は、授業日翌日の昼12時までとします。

※対面授業で、紙でのリアクションペーパーの回収は行わない予定です。

<成績評価方法に関する補足>

レポートの提出形式は、Wordが使える学生はWordで、1年生等でWordの操作に不慣れな学生は、ポータル上のアンケート回答フォーム上でそのまま書いて提出できるものを準備する予定です。

Wordかそうでないかで、成績に差をつけることはありません。

実務経験のある教員による授業科目(令和2年度から該当科目に記載されます)

実務経験の概要

労働政策(キャリア支援)に関する専門家、職業適性検査開発の実務家

実務経験と授業科目との関連性

労働政策の諸課題についての講義と、職業適性検査の体験、職業情報収集・執筆の体験を通じて、産業と職業に関する適切な情報収集法を習得する。